（第三種郵便物認可　大正八年三月七日）　昭和五年七月一日　THE IWAKIJIHO　（火曜日）　第四千九百廿一號　（一）

廿八日夕刊

岩城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
印刷人　福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所　岩城時報社
一部金貳錢　一ケ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五拾錢
△日刊（日曜、祭日）休刊

五十圓以上の戶數割は 特別委員で調査

全部委員附托となつた

平町昭和五年度特別稅戶數割

平町昭和五年度の特別稅戶數割賦課額決定の平町會は二十九日午後一時から召集、左の原案について協議の結果全町を四區に分ち委員をあげ調査する事になつたが、更に七日頃本會議を開き決定する筈である。

▲賦課額八萬四千八百二十二圓十錢、人員四千七百二十七人、內譯五萬八百九十三圓二十六錢（所得額に依る算定額）三萬三千九百二十八圓八十四錢（資產狀況に依る算定額）

▲調查委員

（第一區）吉村安次郎、永山富三區、四區からは二名宛の特別委員をあげ調查する筈である。

葉彥治、吉田五平、柳下元吉、綠川喜三郎、石山治三郎（九名）

（第二區）國府田直良、齋藤敏實、野崎滿藏、關內正一、坂本隆藏、大森勇（七名）

（第三區）佐藤岩次郎、荒川淺次郎、馬目武之助、根本品藏、鈴木光吉、井上茂作（七名）

（第四區）佐々木龍若、櫻井清花澤兎五六、荒川恒次郎、狩庄平、高橋龜松（七名）

尙ほ賦課額五十圓以上の者に對しては第一區から三名、二區、四區からは二名宛の特別委員をあげ調查する筈である。

第三小學校 備品費寄附

平町では左の各氏から第三小學校に對する寄附を採納する事に決定した。

▲剝製山鳥二羽、八幡小路佐藏熊太郎、▲紅白幕、三丁目柏原幸次郎、▲掛時計、二丁目關內彥太郎、▲書箱、四丁目柴田德二、▲掛時計、研町佐々木節次郎、▲扁額、五丁目遠藤爲吉、▲大算盤、立町菅波角藏、▲戶棚、五丁目佐々木龜太郎、▲野球具一揃、諸橋守次、山崎淸三、加藤丈夫、阿部政右衛門、井上貞治郎、大塚鳳三郎、▲標本、新川町薄葉巳之松、▲棚子の寶新川町安藤廣吉。

▲第三校に寄附

平町鎌田町鈴木守彌氏は四十圓、第九區、第十區、第十八區、第十九區では各七十圓宛、第二十區十圓、第二十二區二十圓、第二十六區四十圓を平第三小學校に寄附した。

▲區長辭任

平町第九區佐々木龜太郎氏は病氣のため區長を辭任した。

▲各區長決定

平町第二區長は佐々木節次郎氏、第九區長は平松武氏、第二十五區長は鍋田三重氏に決定した、尙ほ第二區長代理は木澤常松、第八區長代理は齋藤鐵太郎氏に決定した。

元警察署跡の一部 平町で買收する

多數平町議の輿論で

町當局愈々手を出す

平町字紺屋町元平警察署跡敷地の一部二百六十坪は之を縣から買收して廣場とするのが交通上利便なばかりでなく附近町の避難所にもなるといふので有志等の一區長は佐々木節次郎氏、第九區長は平松武氏、第二十五區長は鍋田三重氏に決定した、尙ほ第二區長代理は木澤常松、第八區長代理は齋藤鐵太郎氏に決定した。

白銀區長問題で 加藤、草野兩氏爭ひ

町會でも決定を保留

今曉 內鄕の火事

平町字白銀町區長問題は野心家が多いため容易に纏らず約一ケ年に亘つて欠員中であるが、二十九日平町會に決定しやうとした處、候補者加藤康・草野淸治の兩氏は互に暗中飛躍を試み、加藤氏が同町戶數百七十戶のう百十三戶の調印を取り纏めて當局に提出した處、草野氏は又同世話人と稱する人の決議文をつかす結局決定を保留した。

原因煙草の吸殼

石城郡內鄕村大字御臺境農業紺野七太郎方物置から三十日午前眞野、三着內鄕、石城郡から出場して第一位を占めたものは六十米湯本町、木田爲義、四百米湯本町鈴木武雄、三段跳磐崎村佐藤兼助、砲丸投同人である。

入浚ひの仕業か 五丁目で少年行衛不明

瓦斯爆發の

犧牲者絕命

石城郡磐崎村藤原炭礦左八坑內で過する廿五日午後七時頃ガス爆發し作業中の火藥係廿寄勝之丞（二五）坑夫金在淑（四二）同光山金正（四一）の三名は全身黑焦となり瀕死の火傷を負同礦病院へ入院加療中であつたことは既報したが、右三名は手當のかひなく廿七日午後四時遂に死亡した尙會社では相當な慰籍金を支給する筈である。

濱三郡教員 陸上競技

濱三郡教員陸上競技大會は二十九日相馬郡中村町で擧行されたが、競技種目は六十米、百米、四百米、町村對抗リレーレース、郡對抗リレーレース、走巾跳、三段跳、砲丸投で、郡對リレーレースは石城郡は棄權し町村對抗リレーレース一着中村、二着

▲佐久間警部補榮轉

平警察署特別高等警察係佐久間警部補は今回縣高等課次席に榮轉し七月二日赴任の筈である。

▲子鍬倉社大祓

縣社子鍬倉神社では三十日午前八時から午後九時まで大祓を執行、當日午前十時から同社造營寄附金完納者を招ぎ社前において奉告祭を行ふ筈。

對校庭球 磐中勝つ

磐城中學校對安積中學校の庭球試合は二十九日磐中校庭で擧行したが、磐中側で優退組一組を殘して安中を敗つた。

▲平町人事

▲死亡　四丁目三七阿部キミ從妹品子（二ッ）

▲鐵道官舍十一ノ六、五味淵庄次郎三男登（二六）

平町壯丁諸君に望む

平町長　伏見彥衛

（中）

今昭和三年に於ける受檢壯丁檢查の結果を擧ぐれば、本籍百二十一人、入寄留四十一人內甲種五十二人、乙種七十一人、丙種三十一人、丁種六人計百六十二人、內現役に徵募せられたるもの三十五人とす甲種は受檢百人に付二一六〇にして之を昨年平均一四二〇の歩合に比し勝ること七四、又「トラホーム」花柳病に何ては昭和三年度「トラホーム」患者三人、昭和四年度一人にして二人の減少を見たり、又花柳病に於て昭和三年一名の患者を出し、昭和四年度に至り二人の增加を見たるは誠に遺憾とする所なり。

第二に壯丁教育成績調查なり敎育調查の成績如何は其の地方靑年敎育の程度を了知すべく從て地の成績の良否は直に地方文化の程度を證明するものなり、而して家業上若は本人の都合により其學力に高低あるは素より止むを得ざるも一旦履修したる學科は常に之を溫習し又其の學ばざりしことをも努めて補習を受くることを心懸けざるべからず、之を例せば小學校時代僅かに尋常一、二年を修めたるのみにて檢查の當時高等小學校卒業同等の實力を有し、中には中等學校同等の人も珍しからず然るに高等卒業者にして尋常卒業と判定せらるゝが如きもの之れなきにあらず、是等は皆小學校を退きたる後に於ける努力如何に因るものにして其處に其人の價值存在すと云ふべし、故に學校程度の低きを恥つるよりは寧ろ一旦修めたる程度を忘却せることを恥とすべし、諸君は必ず此の悔なき樣注意を望む。（つゞく）

妻を毆る

石城郡内郷村高坂磐城炭礦坑夫藤川清藏（三二）は二十八日午後六時頃内縁の妻加藤サダ（二六）を相手に飲酒の上口論をなし、さだの頭部を棍棒で毆打し全治二週間の重傷を負はしめたので二十九日平署で取調中である。

老衰を悲觀して縊死

湯本町大字水野谷塩崎秀吉（六四）は二十八日午後四時頃自宅奥座敷で縊死を遂げたが、原因は老衰を悲觀した結果である。

▲便所で縊死

石城郡内郷村大字綴無職河野喜作義母江川とめ（七四）は二十六日午後五時ころ自宅便所内細紐を吊るし縊死を遂げた、原因は慢性の子宮病を苦にした結果である。

可憐な少女

（中）　志賀勇

さうして兄さんに魚屋でも何か商にでも出てもらつて家の爲めに盡さうと思つて母に話すと、母は兄さんだつてまだ新聞配達して居る學生ではないの、それにお前はなほさら小さいではないか、いくら御母さんが目くらになつたとて子供を金に替へて迄も暮らさうとは思はない、それより一枚でも多く袋を張つて、さうして學校に行つて勉強して立派な人になつてくれゝば、それで御母さんは滿足たから、一生懸命に勉強しておくれと言つて、後は下をうつむいて逝し父の事でも思つて涙ほろりりこぼし、母の涙を見れば見るほど、私も胸いつぱいになり、いかに母や兄が反對してもいゝ自分は奉公に行つて家を助けなければならない。と確信をいだき無理承諾してもらをと思つて母の前にすわつて、御母さんこれからさきはどうするつもり、と話しかけると母はだまつて居る、お母さん家に御父さんが殘した金はまだ有るのと聞くと、母の言ふのにはお前も知つて居るではないか、御父さんが死んでからまもなく御母さん迄眼病にかゝつて金もつかつたのではないの、なんぼ御父が殘したとはいゝ、そんなに有るものではないと聞いた。云々の末遂に母にたのんで奉公に行く事になつた、そして三年間と云ふものは宇都宮某カフエーに女給となつて働きだしたが世が不景氣に陷いつた爲めおもやうにも金は取れづ家に金さい送金する事は出來ず、それだからと云つて送らない譯にもゆかず、しかたなし主人より金を借りては家に送金した、金は皆借金になりそれでも好景氣時代で有れば二百三百の借金はすぐぬけるが、不景の爲め返すどころか増ともへりはしない。さうした金故に遂にくらがいとなり流れ〳〵て來るともなしに故郷で有る平に來て、今は闇に咲く虚弱い酌婦となり、すきな客ならまだよいが、いやな客でも心良く相手にし、いかなる夜でも窓ぎしにゐて客引しなければならない、いやな客引しなければならないいやしい女にはなつたが、酌婦心では有りません、さつき言つたけれど私には兄も弟も有る、けれど東京淺草駒形の某カヤ問屋に二十一になる迄家の爲め東京にゐるのです、兄さんは家でみじめな暮しとはいえ其の日〳〵を送つて居ます、だが悲しい事には今年二月の四日に御母さんは眼病を苦にしてやら家の中のことを思つてやらとう〳〵私等三人を殘して永遠の眠りにつく。

謝近火御見舞

今曉近火の際は早速御駈付種々御盡力に預り且つ御見舞被下御蔭樣にて類燒を免れ候段厚く奉感謝候一々拜趨御厚禮可申上筈の處混雜中御尊名伺ひ洩れも可有之乍畧儀以紙上御挨拶申上候

昭和五年六月三十日

内郷村大字御台境

内郷牛乳舍

專門 内科一般

内科ハ何デモ診療致マス
呼吸器病バカリデハアリマセン

平町南町六五（電話七二二番）

川井内科診療所

醫學士　川井重之
女醫　川井安子

◆コークス大々的値下斷行

從來一俵金壹圓貳拾錢ノ……
東京瓦斯コクースヲ……金九十五錢ニ
……値下ゲ致シマツタ
―一家ノ經濟ハ臺所カラ―
◎使ヘ馴レヽバコークス程經濟ナモノハアリマセン
◎使用法ハ參上シテ御説明申上マス
配達迅速　御注文ハ一俵ヨリ御届ケ致シマス
電話二三七番へ
平驛前
阿部石炭商店

消費節約

品質本位　家庭染料
みやた染
平町一丁目
特店約　大平や藥店
電六四二番

ラヂウム温灸器

胃腸病の必治法
二貫や三貫らく〳〵肥る世界的健康法

特約販賣
治療部
福島縣平町五丁目二八
志賀齒科醫院
福島縣平町白銀町九
産婆　關口悦子

「温灸治療法」百三十頁の美本無代進呈

内科　小兒科
花柳病科
（入院應需）
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平五〇七番

初夏の御用意は ツルヤ

新緑の初夏が訪れました
帽子、シヤツ、ネクタイ、沓下、
パラソル、日傘等
實用品や高級品の數々が
豊富に陳列されました
旅行や外出時の裝身具
輕快なステツキまで
宵の散歩には
ゼヒ……ツルヤ
平町四丁目
にツルヤ
電一四四

肺病肋膜 スーパー錠

專門藥
藥價　十一日分　七・〇〇　卅三日分　二〇・〇〇

試用者の感謝と、好評なる賣行きとは其優秀なる効果を立證せり。
▲故に輕症期に於ける人々よ、直ちに服用し以て一刻も早く健康体に復せよ。
▲則ち本品の現出は、病者を救ふに偉大なる福音なり。
▲説明書密送す、御申込あれ。

代理店　平町五丁目角　山野邊藥局

夏服

輕快で瀟洒な夏服の季節となりました。
スマートな今年度の新製品が豊富に取揃ひました。

◆輕裝上衣
黒セル　4.20ヨリ
カシミヤ　10.00ヨリ
◆白直衣　1.60ヨリ
◆白ヅボン　2.60ヨリ

平二　ちかや洋服店　電203